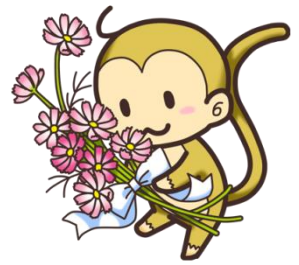


# としょかんNEWS 第115号



2016年10月7日  
湘北短期大学図書館

## 読書ノートキャンペーン実施します！

### ● 読書週間に「読書ノート」を提出するとボーナスポイントがもらえます

毎年10月27日から11月9日までの「読書週間」には、読書の推進を目的とした様々なイベントが行われます。湘北短期大学図書館では、この期間に「読書ノートキャンペーン」を実施します。期間内に読書ノートを提出された方には、下記のとおりボーナスポイントを差し上げます。2ページ以上提出された方には、さらにおしゃれグッズもプレゼントします！

まだ読書ノートをつけたことがない方も、しばらく読書ノートをつけていなかった方も、是非この機会に参加してみませんか？

- |     |  |
|-----|--|
| ・期間 | 10月27日(木)～11月9日(水)   |
| ・内容 | ① ボーナスポイント：1ページ(6冊)につき +20ポイント<br>② おしゃれグッズ：2ページ(12冊)以上で おしゃれグッズ1点 |

### ● 読書ノートとは？

図書館では、みなさんが読んだ本についてメモをする習慣を身につけることをオススメしています。そのために便利なのが「読書ノート」です。この記録を続けていけば、自分が学生時代にどんな本を読んだか、その本から何を学んだか、どんなところに感動したか、振り返ることができます。また、レポートやゼミの参考文献リストとして活用しても便利！就職活動の際にエントリーシートや面接で自己PRするときにも役立ちます。ぜひチャレンジしてみてください。

### ● <読書ノート>をポイントに交換するには・・・

- ① 図書館で配布している<読書ノート>に読んだ本の感想を記入してください。
- ② 1シート(6冊)記入したら、カウンターで提示してください。  
120ポイント付与します。(上記キャンペーン期間中は+20ポイント)
- ③ 貯まったポイントは、1号館1階の引き換え機で各種チケットに交換できます。

### ● ポイントの対象になる本は、下の表で確認してください

対象	対象外
・文芸書 (児童文学・詩集・名言集を含む)	・マンガ ・雑誌 ・カタログ ・資格試験 ・料理の本 ・手芸/工作/スタイルブック ・イラスト/キャラクターブック
・実用書	・絵本 ・写真集 ・占いの本 ・凶鑑/事典 ・旅行ガイド
・学術・専門書	
・文庫	
・新書	

年に一度、図書館に寄せられた読書ノートの中から優秀作品を決める「読書ノート大賞」の選考があります。受賞者には図書カードが贈られます。また、提出者全員に参加賞もあります。読書ノート大賞を目指して、ふるってご参加ください！

## 図書館の魅力をポスター・コピーでPR!

### ● あなたの好きな“としょかん”をみんなに勧めよう!

湘北短期大学の図書館は、皆さんの学生生活を多角的にサポートしています。あなたが感じている図書館の魅力を“心をつかむ”キャッチコピーと写真・イラスト等で表現してみませんか？優秀な作品には賞品を贈呈いたします。ご応募をお待ちしています。優秀作品の発表・表彰は、来年1月の予定です。優秀作品はA1ポスターに拡大し、学内に掲示します。

【ポスター・コピー例】

知的派なら...  
「いざ、創造の森へ  
いざ、空想の世界へ」

利用方法から...  
「雑誌読む? DVD 観る?  
レポート書く?  
あなた次第です」

気軽に!  
「課題が出たら  
図書館に行こう!」

呼びかけて!  
「自分磨きしてみない?」

被写体は図書館内でも、  
学外でもOK!  
コピーに合う  
メッセージ性の  
あるものを

グラフィックスでも  
手書きイラストの画像化  
でも可!

参加賞も  
あるよ!

・参加資格: 湘北短期大学の学生  
・応募期限: 2016年11月30日(水)  
・提出先: 湘北短期大学図書館

【連載】「ルーエッセイ(33) 図書館、ラーニングコモンズ、Next? 総合ビジネス・情報学科 小掉理子

平成10年3月8日午前10時。私は都内新宿区にあるW大学の51号館地下2階に居た。ここは理工学部の図書館で、地下1~2階が書庫となっており、専門分野に関する論文がほぼそろそろ。テキストを書く上で、どうしても必要な文献があり、学生時代に10年ほど通い詰めた場所を再度訪れたのだった。国会図書館でコピーすると1枚25円だが、非常勤講師ならば1枚10円で済む。現在のようにネットで論文を買える時代ではなく、図書館は教員にとって、なくてはならないものだった。

平成19年5月16日午後5時。私は県立茅ヶ崎高校の図書室にいた。図書館職員を含むリベラルアーツセンターメンバー有志と一緒にシームレスな高大接続教育を実現するために、入学前科目を企画設計し始めていた頃で、高大連携高校の教員と「コミュニケーション教育研究会」を2か月に一回ほどのペースで開催していた。その中で、「大学教員は高校の実情を知ったほうが良いのではないか」という意見があり、茅ヶ崎高校の見学会が実現したのだった。PC演習室での授業や図書室の見学を行い、それらを通して教育資源や

時間割の組み方の違い等を知った。実に印象深い見学会だった。高校の図書室は、情報検索や智慧を形成する場ではなく、個人が静かに教科書や課題図書、趣味・娯楽の本や雑誌を読むこぢんまりとしたスペースだった。入学前教育の中に、大学の図書館の活用法を学ぶ回を組み入れなければならないと思った。

平成20年2月7日午後6時。私は他のGPメンバー4人とともに、雪に埋もれたフィンランドのKIRJASTOにいた。さすがPISAで高得点を出す国の図書館は違う。三か所訪問したが、いずれもおしゃれなカフェのような外観で、夜はライトアップされる。スタイリッシュな建物の写真が載せられないのが残念だ。内部もデザイン性の高い空間で、キッズスペースがあるところもあり、利用者はゆったりと本を読んだり、PCに向かったりしている。カウンターで長々と質問?相談?をしている人もいる。衝撃的な研修だった。本学の図書館がラーニングコモンズとしてリニューアルオープンしたのは翌年、平成21年である。

さて10年後の平成30年、智の源であった「図書館」は変貌するのだろうか。